

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	しおじりしならい 塩尻市奈良井	国重伝建	中山道の難所の一つ、鳥居峠の北麓にあたる重要な宿場町であり、檜物細工や漆器、塗櫛等の手工業が盛んで、現在も町のつくりや家並みは当時の面影を色濃く残す。	塩尻市
②	しおじりしきそひらさわ 塩尻市木曾平沢	国重伝建	檜物細工や漆器の生産によって生計を立てる産業の町。店舗をはじめとして塗蔵等の作業場や職人の住まい等、漆器業にまつわる建物が建ち並ぶ。	塩尻市
③	まげもの 曲物	県知事指定 伝統工芸品	木曾桧を木理に沿ってへぎ、熱湯浸漬により曲げ加工を行い、そば道具や茶道具等を作る。	塩尻市
④	きゅうなかむらけじゅうたく 旧中村家住宅	市有形	奈良井にある櫛問屋で、もと櫛職人であった中村利兵衛の住まい。お六櫛等を商った。	塩尻市
⑤	「そばきり発祥の地」	未指定	本山宿に建立。木曾谷が蕎麦の特産地であることを示している。	塩尻市
⑥	木曾塗の製作用具及び 製品	国有形民俗	木曾漆器館では、何世代にもわたって受け継がれ磨きぬかれた伝統技術の技を職人による実演で見ることができ、塗り箸の体験ができる。	塩尻市
⑦	きそむらしせき とりいとうげ 木祖村史跡 鳥居峠	村史跡名勝天 然記念物	松尾芭蕉が訪れ「ひばりより 上にやすろう峠かな」の句碑がある。御嶽遥拝所があり、霊神碑や神像が立ち並ぶ。	木祖村
⑧	とりいとうげ とちのきぐん 鳥居峠のトチノキ群	村史跡名勝天 然記念物	松尾芭蕉が訪れ「木曾の栃うき世の人の土産かな」の句碑がある。樹洞に入れた子が元気に育った言い伝えから、木の皮を煎じて飲めば子宝に恵まれるという言い伝えがある。	木祖村
⑨	ろくぐし ぎほう お六櫛の技法	県選択 無形文化財	お六櫛の名の起りは、頭痛もちのお六が、家の近くのミネバリの樹を櫛にして髪を梳いたことにより全快した伝説による。現在の主生産地が藪原である。実演見学や体験もできる。	木祖村

⑩	みずきざわてんねりん 水木沢天然林 (水木沢郷土の森)	未指定 (現中部森林管理局との保存協定)	江戸時代、城や城下町を造るために木曾山の木が皆伐された後、僅かに残された木から自然に種が芽生え、現在の森が形成された。現在樹齢約550年の大さわらを始め、300年以上のヒノキやブナ、ミズナラ、トチノキなど針葉樹と広葉樹が混交する森林。	木祖村
⑪	きそうま 木曾馬	県天然記念物	北海道の道産子や宮崎県の御崎馬と並ぶ日本在来馬種で開田高原に「木曾馬の里」がある。 南木曾町に伝わる五穀豊穰に感謝する「田立の花馬祭」では木曾馬が集落を練り歩く。	木曾町 南木曾町
⑫	やまむらだいかんやしき 山村代官屋敷	町建造物	江戸時代、木曾谷に地場産業を奨励した代官山村家の屋敷。山村家は、約280年間、木曾谷の代官を務めた。	木曾町
⑬	福島関所跡	国史跡	日本三大馬市が開かれていた木曾福島にある関所。木曾馬はこの地で売り買いされていた。	木曾町
⑭	県宝山下家	県宝	木曾馬馬主で知られる山下家は、馬主で沢山の馬を所有していて農家に貸し与えていた。農家は、仔馬を育てることで収入を得ていた。	木曾町
⑮	きそ おんたけさんれいじんひ 木曾御嶽山霊神碑群	未指定	御嶽講の人々により死後魂が御嶽に還るよう願って建てられた石碑群	木曾町 王滝村
⑯	らっぽしょ祭り	町指定無形	本来は山吹山麓の徳音寺集落の子供たちのお盆行事で、木曾馬に乗った木曾義仲の武者も町を練り歩く。	木曾町
⑰	木曾踊りと木曾節	町指定無形	全国に知られる木曾踊りは、木曾義仲の供養のために行われるが、木曾節は「おんたけ節」に筏師の労働歌「なかのりさん節」などを取り入れたもの。	木曾町
⑱	高瀬家	未指定	「木曾路はすべて山の中である」で有名な文豪島崎藤村の姉である園の嫁ぎ先で、高瀬家は、山村代官の家臣で代々関所番を務めた。	木曾町
⑲	おんたけじんじやくとみや 御嶽神社里宮	未指定	室町時代後期頃から信仰を集め、江戸時代には御嶽山頂に祀られた御嶽山座王大権現の里社として全国にその信仰が広まった。	王滝村 木曾町
⑳	きよたき 清滝	未指定	江戸時代、水行だけの軽精進でも御嶽登拝ができるようになり、庶民の信仰も集め、木曾谷を訪れる人を増加させた。	王滝村

⑳	しんたき 新滝	未指定	清滝と同じく、御嶽山修験者が修行する場所で、木曾谷を訪れる人を増加させた。滝裏に小さな岩祠があり、滝を裏側から見ることができるので裏見滝とも呼ばれる。	王滝村
㉑	ひやくそうがんぞ 百草元祖の碑	未指定	「百草」は、三岳黒沢口を開いた尾張の行者・覚明（かくめい）と、王滝口を開いた武蔵国の行者・普寛（ふかん）によって伝授されたといわれ、御嶽信仰の普及とともに、「御神薬」として行者たちによって全国の信者に配布されるようになったと伝えられる。	王滝村
㉒	おうたきしんりんてつどう 王滝森林鉄道	未指定	木曾森林鉄道の中核をなした森林鉄道で、今も観光用に樹齢 300 年の天然林が茂る森林浴発祥の赤沢自然休養林の中を走り抜けている。なお、森林鉄道は木曾谷一帯に建設された。	王滝村 上松町
㉓	ねざめ 寝覚の床	国指定名勝	木曾八景のひとつ。木曾路を通る旅人が訪れ、数々の歌を詠んだ。松尾芭蕉も訪れ「ひる顔に ひる寝せふもの床の山」の句碑がある。奇岩の溪谷美の景観と浦島太郎伝説で知られる。	上松町
㉔	木曾の 棧 <small>かけはし</small>	県指定名勝	木曾八景のひとつ。松尾芭蕉が訪れ「かけはしや 命をからむ 蔦かつら」の句碑がある。	上松町
㉕	あかざわしぜんきゅうようりん 赤沢自然休養林	未指定	古来から檜などの良質な木材を産出し、伊勢神宮の式年遷宮の際にはここから選定された御神木が用いられる。森林が保護された森林浴発祥の地。	上松町
㉖	はくさん 白山神社	国重文	元弘 4 年（1334 年）に建立され、白山神社、熊野神社、伊豆神社、蔵王神社の 4 社殿が鎮座し、現存する社殿建築としては信濃最古のもの。	大桑村
㉗	じょうしょうじ 定勝寺本堂・庫裏・山門	国重文	定勝寺で金永という人物が、そば切りを振舞ったという、日本で一番古い文献があり、木曾谷が蕎麦の特産地であることを示している。	大桑村
㉘	あてらけいこく 阿寺溪谷	未指定	ヒノキ・サワラ・ネズコ・アスナロ・コウヤマキの木曾五木に囲まれた溪谷で、美しい木曾檜の林がある。	大桑村
㉙	つまごじゆく 妻籠宿保存地区	国重伝建	江戸から 42 番目の宿場として慶長 6 年（1601）に制定され、江戸期を通じて宿駅としての機能を果たしてきた。宿場景観地区は、江戸期の趣を今も色濃く残した宿場町。	南木曾町

③①	はやしけ 林家住宅	国重文	妻籠宿で、代々、脇本陣・問屋を勤めてきた。将軍家茂の御簾中として御降嫁した皇女和宮が、中山道ご通行の折に脇本陣で御小休した。	南木曾町
③②	なかせんどう 中山道	国史跡	中山道は、慶長 7 年 (1602) に徳川家康により五街道の一つとして、江戸から京都までの重要な街道として整備された。馬籠峠から根の上峠までの総延長 19.6km のうち、中山道の旧態が良く残っている 8.5km が史跡。	南木曾町
③③	つまごじょう 妻籠城跡	県史跡	戦国時代に整備された城跡。慶長 5 年 (1600 年) の関ヶ原の戦いの時も妻籠城に軍勢が入っている。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。	南木曾町
③④	いちこくとちたてばちのや 一石枒立場茶屋	未指定	中山道沿いにある一石枒は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えたところ。現存する建物で無料休憩所として旅する人を温かくもてなす。	南木曾町
③⑤	なぎそろくろ工芸	国指定 伝統的工芸品	厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術。「木地師の里」で実演を見ることができる。	南木曾町
③⑥	あらかせひのきがき 蘭 桧 笠	県指定 伝統的工芸品	寛文 2 年 (1662) に飛騨の落辺から来た人によって技法が伝えられた、(桧を薄く削って細長い短冊状にした)「ひで」で編まれた手作りの笠。「笠の家」で実演をみることができる。	南木曾町
③⑦	手打ちそば	県選択 無形民俗文化財	御嶽山修験者に所縁のある「そば」は開田高原特産となった。木曾谷は「そば切り」の草分けの地といわれる。	木曾谷全域
③⑧	すんき漬け	県選択 無形民俗文化財	御嶽山麓が海から遠く、塩の調達が難しいため、木曾町などでかぶを漬けて発酵させ、塩を使わず酸味を旨味として食べる食文化がうまれた。芭蕉一門も食し、「木曾の酢茎に春も暮れつつ」と門人が詠んだ。そばと合わせて食べる「すんきそば」や「とうじそば」は、木曾谷の冬の風物詩になっている。	木曾町 王滝村 木祖村 上松町 大桑村 塩尻市